

## THE INTERVIEW

5

## 人材の国立印刷局

## 検査技術、その手が受け継ぐもの

## 日本銀行券、そのたゆまぬ改良



A.M.

研究所製品分析部  
機械システム工学科 卒業  
平成21年入局

伝統の技法を、  
この先もずっと

学生の頃、「お札と切手の博物館」に見学に行く機会があり、高度な偽造防止技術を知って日本のお札のすばらしさを感じ、国立印刷局で働くことを決めました。

国立印刷局では、日本銀行券や郵便切手が個別に裁断されていない状態を「大判」とといいますが、現在所属している検査係では、主に郵便切手の大判に不良製品がないか検査する業務を担当しています。不良製品を見落としてしまうと世の中に欠陥品が流出することになり、ひいては国立印刷局の信頼を損なうことにもつながります。ですから、責任感を持ってスピーディかつ慎重に検査することが求められます。

配属当初は、多種多様な郵便切手に対応できず、未熟さを痛感することもありましたが、先輩方のアドバイスやフォローのおかげで今では1人で検査を任されるようになりました。強い使命感を感じています。検査技術は、これまで国立印刷局が磨き上げてきた伝統ある技術です。今度は私がその技術を継承していくよう、日々努力しています。

製造現場と研究所、  
それぞれの仕事の面白さ

入局して8年間は彦根工場で日本銀行券の印刷・検査工程で製品の製造に携わりました。入局後は、先輩方から丁寧に作業手順や機械の仕組みを教えていただき、最初は上手く進められなかつた作業も少しづつ自信を持って行えるようになりました。

一方、現在所属している研究所では自ら設定した研究課題の目標達成に向けて専門的な知識の習得や情報収集等を行っており、工場での仕事とはまた違った面白さを感じています。具体的な業務内容としては、市中におけるATM等の現金処理機器で日本銀行券が正しく処理されるかなどのテストを行い、製造部門や研究開発業務にフィードバックを行っています。日本国内には多くの現金処理機器が普及しているため、責任は重大です。

現在流通している日本銀行券は平成16年に誕生したのですが、将来、日本銀行券の仕様が変わることがあるとしても、柔軟に対応できる知識と技術を身に付けておきたいと思います。

## THE INTERVIEW

6

## 人材の国立印刷局



Y.N.

王子工場作業部郵券課検査係  
総合学科 卒業  
平成28年入局

学生の頃、「お札と切手の博物館」に見学に行く機会があり、高度な偽造防止技術を知って日本のお札のすばらしさを感じ、国立印刷局で働くことを決めました。

国立印刷局では、日本銀行券や郵便切手が個別に裁断されていない状態を「大判」とといいますが、現在所属している検査係では、主に郵便切手の大判に不良製品がないか検査する業務を担当しています。不良製品を見落としてしまうと世の中に欠陥品が流出することになり、ひいては国立印刷局の信頼を損なうことにもつながります。ですから、責任感を持ってスピーディかつ慎重に検査することが求められます。

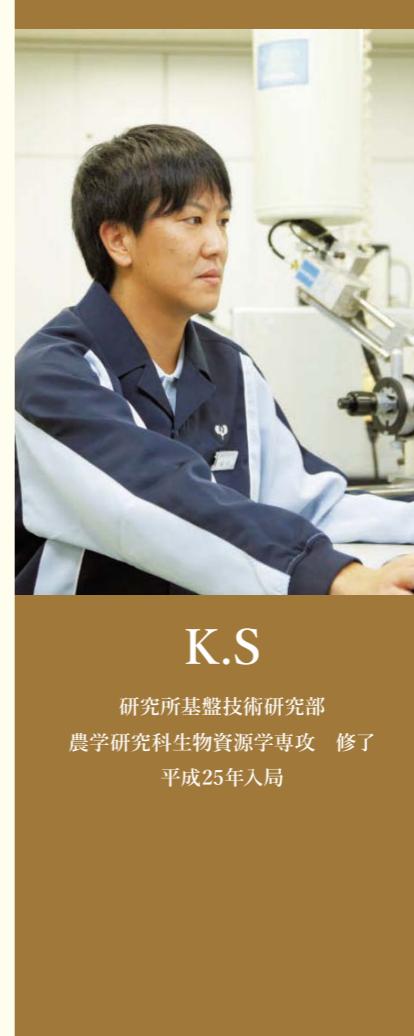
配属当初は、多種多様な郵便切手に対応できず、未熟さを痛感することもありましたが、先輩方のアドバイスやフォローのおかげで今では1人で検査を任されるようになりました。強い使命感を感じています。検査技術は、これまで国立印刷局が磨き上げてきた伝統ある技術です。今度は私がその技術を継承していくよう、日々努力しています。

## 基礎研究、その飽くなき探求心

## THE INTERVIEW

7

## 人材の国立印刷局



K.S.

研究所基盤技術研究部  
農学研究科生物資源学専攻 修了  
平成25年入局

## 設備管理、そのひたむきな努力

## THE INTERVIEW

8

## 人材の国立印刷局



S.A.

小田原工場生産管理部製紙設備管理課  
環境都市工学科 卒業  
平成27年入局

地道な研究活動が実り、  
特許を出願

私は研究所に所属しており、偽造防止技術の基礎研究と製紙技術の高度化に関する研究に従事しています。日本銀行券を例にとると、インキの厚みを紙の断面から観察したり、紙の原材料から改善して、より良い日本銀行券を作ることができないか研究する業務です。

先日、新たな偽造防止技術を創出し、特許出願しました。これまで様々な技術展示会や学会に参加するなどして研究に関する情報や知識を吸収し、研究開発に努めた成果だと思います。高度な偽造防止技術を付与した日本銀行券の製造・技術開発に携わることができ、国立印刷局だからこそ味わえる充実感があります。

定期的に所内の研究員と研究の進捗を発表しあい、フィードバックを得ながら課題解決に向かう研究所での日々は、大学・大学院のゼミの延長のように感じられます。しかし、学生のときとの違いは研究に「損益」の観点が存在することです。ビジネス的に成立する条件を考慮しながら、より良い答えを求めていくところに楽しさがあります。

経験を積む日々。  
感謝の言葉がやりがいになる

就職を考えていたときに友人が見ていた国立印刷局の資料を手に取り、国民生活に身近で欠かせない製品を作っていることを知って入局を決めました。

現在は各種製紙設備の管理を行う部門で、設備の安定稼動のための維持管理や、新設備導入のための設計等を行っています。それに伴い、外部業者や関係部門との調整や工事監督も行います。私は建物や空調・給排水設備を担当しているため、各設備の仕組みや建築・設計の用語を正しく理解しないければ、作業を依頼する外部業者に自分の考えを伝えすることはできません。滞りなく業務を遂行できるよう、日々設計に関する新しい知識や技術の習得に取り組んでいます。

実際にその設備を使う職員や、作業を依頼する外部業者の視点に立った仕事の進め方を学ぶことも大切です。局内外の方と関わる部門ですので、コミュニケーション能力も鍛えられます。想定外のことが起き、調整や対応に追われることがありますが、その中で「ありがとうございます」と言ってもらえると、また頑張ろうと元気が湧いてきます。